# 令和 2 · 3 年度 熊本県教育委員会指定 公益財団法人熊本県学校保健会委嘱·一般財団法人熊本県 P T A 教育振興財団委嘱 令和 3 年度 氷川町教育委員会指定

# 『防災教育研究推進校』研究発表会

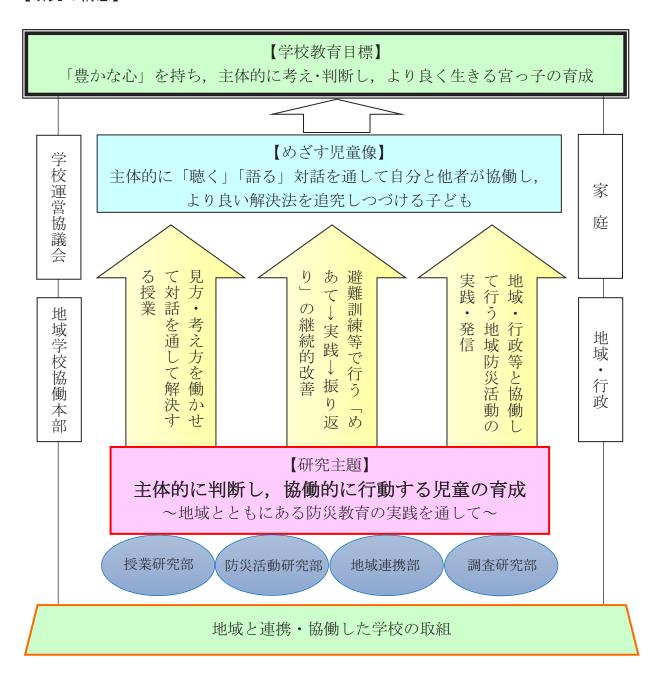
## 研究主題

主体的に判断し、協働的に行動する児童の育成 ~地域とともにある防災教育の実践を通して~



令和3年11月19日(金) 氷川町立宮原小学校

### 【研究の構想】



### 【主題の分析】

主体的に判断する

・防災に関する課題及び防災活動において、様々 な学びを通して最終的に自らがどのように考え 行動していくのかを明らかにしていく姿

協働的に行動する

・単にみんな一緒に指示通りに行動するというのではなく、多くの人との対話を通してみんなが納得できるような最適解を追究する姿

地域とともにある 防災教育

·学校、保護者、地域及び行政のそれぞれの立場から 意見を出し合うなど双方向の対話を通して、防災訓 練等の活動を不断に改善し取り組んでいく教育

### 【主題設定の理由】

これまでの経験では予測不可能な災害や感染症がおこる現代において,これからの世界を創造し生き抜いていくことが期待されている児童に,小学校段階において基礎的な防災に関する知識・技能だけでなく,未知の状況においても他者と協働し,より良い解決策を追究しようとする姿勢が不可欠になってくると考える。

このことは、学習指導要領において求められている資質・能力に通じていると考える。 教育活動全体を通じて、より良い社会の形成者として、学んだ知識を実生活において活用 しながら問題解決や価値の創造を行い、自らも知識を更新し続けていく資質・能力が求め られているのである。そのために、防災教育においても、これまでの知識・技能の習得を 重視した教育から、その習得した知識・技能を活用できる資質・能力の育成へと教育を転 換していくことが必須となっている。その実現のために、「教師がどのように教えるか」 ではなく、「児童がどのように学ぶのか」という教師の授業観の転換が必要である。

また、児童にとって生きた防災教育、持続可能な防災教育を行っていくためには、学校 運営協議会(CS)を始めとした、地域住民や行政、保護者等との、より一層の連携・協 働が必要であると考える。

以上のことから、防災について児童が自ら課題を持ち、解決策を主体的に様々な他者と対話を行い、実生活において適切に判断し行動できる態度を育てることは大切であると考え、本主題を設定した。

### 【研究の仮説】

- 仮説1 災害に関する課題に対し、多面的・多角的な見方・考え方を働かせて協働的 に解決する活動に取り組むことで、児童が主体的に判断・行動できる資質・能力を高めることができるであろう。
- <u>仮説2</u> 避難訓練等の学校行事において「めあて-実践-振り返り」の活動に継続して取り組むことで、避難訓練等の防災活動に対する意識を高めることができるであろう。
- 仮説3 保護者・地域住民等学校運営協議会(CS)・行政と協働して地域防災活動の 実践を行い、その活動を地域に発信することで、児童・保護者・地域の防災意 識を高めることができるであろう。

#### 【「ひ・か・わ」型学習】

氷川町 5 校で確かな学力を育成するために取り組む、共通実践事項

#### 主体的・協働的な学びにつなげる授業デザイン

導入 めあての板書と枠囲み

展開「ひ」 ひとりで考えよう, やってみよう

自分の考えを持つ

「か」かんがえを伝え合い、高めよう、広げよう

協働的な学び

◇協働的・対話的な学びの時間の確保

終末「わ」わかったことをまとめよう、確かめよう

学力の定着を図る

◇めあてに対応したまとめと振り返りの時間の確保

◆すべての子どもたちが「今日の勉強で○○がわかった。」と言える振り返り

## 【仮説1】

災害に関する課題に対し、多面的・多角的な見方・考え方を働かせて協働的に解決する活動に取り組むことで、児童が主体的に判断・行動できる資質・能力を高めることができるであろう。

### 授業の実践

授業を通して防災の意識を高め、「主体的に判断し、協働的に行動する児童の育成」という主題に迫るために、防災教育と関連教科等を整理し、防災教育年間計画を見直すとともに、授業においては3つの視点を設定して実践を行っている。

#### ★6年生1学期の授業実践例(授業の視点と防災教育関連教科等との連携)

児童が災害発生時に主体的に判断し、行動するためには、防災や自然災害についての基礎的な知識が必要である。そのために教科の特性を生かし、複数の教科等との関連を図りながら、研究の視点に沿った授業づくりを実践した。

**○道徳「奇跡の一本石垣」** A-5 希望と勇気, 努力と強い意志 (平成28年熊本地震関連教材「つなぐ〜熊本の明日へ〜」)

### 〇行事「防災教育講演会」

東日本大震災で被災された氷川町出身の佐藤美香さんによる オンライン講演会

**◎社会科「災害から私たちを守る政治」** 政治の役割を中心に「公助」を学ぶ授業(研究授業)

### 単元終了時の児童の姿

「災害の復旧・復興は被災者の願いのもと、地方公共団体や国が協力して計画的・組織的に取り組まれていることを捉え、災害に強いまちづくりを行っていくためには、公助だけではなく、自助・共助など、日ごろの備えや協力も大切であることに気づく児童」

### 視点 1 ⋯多面的・多角的な見方・考え方を働かせる課題の設定

○釜石市の実際の取組を基に、「国、県、市の取組そして釜石市の変化を捉え、災害に強いまちづくりに必要なことを考える」と課題を設定した。取組の 具体例を写真で見ることで、様々な角度から考える必要性

### 視点2…互いの考えの違いを認識させる手立て

があることに気付かせた。

○課題に対して一人で考える時間を確保。その後, ITCを 使って自分の考えを提示し, 友だちと比較する時間を設定 した。グループワーク機能の活用により, 多様な考えを共 有することができた。

### 視点3一対話によって得られた学びと自らの変容を記した振り返り

○互いの考えを出し合った ことで、公助の必要性と ともに自助・共助の大事 さにも気付いていった。 振り返りでは、児童自身 がどのように判断し、行 動すればよいかを考え、 記録に残すことができた。



# 〇学級活動(授業参観)「洪水時の避難の仕方を考えよう。」

町の防災マップを活用した,各家庭での避難所や避難経路等 の備えの確認





## 【仮説2】

避難訓練等の学校行事において「めあて一実践一振り返り」の活動に継続して取り組むことで、避難訓練等の防災活動に対する意識を高めることができるであろう。

### 実践事例 避難訓練

児童の防災活動への意識を高めることを目的に、実践のみで終わるのではなく、事前にめあて を立てておいたり、実践後振り返りをしたりすることによって、いざという時の避難経路の確 保について考えるきっかけとなっている。

## 2 2 7 ひなん訓練記録

(今日の訓練は何のためにあるでしょう) じしんで かじ(こなったてき あんせ、人(こ ひなんするため) (自分のめあてを決めましょう) おかしもをまもる。 てく(こ ひべらない。

児童が書いためあて



訓練の実践(シェイクアウト訓練)





地震・火災の避難訓練



予告なし緊急時避難訓練



土砂災害対応避難訓練

#### 児童の振り返り (R2)

- ○机の足をおさえたり、逃げる経路を変えたりすることが分かりました。地震だけど、地震と火災が起きた時で逃げる経路が違うので気をつけたいと思いました。地震が起きて、津波が来る訓練もして、地域で危ないところなど見つけて安全に逃げられるようにしたいので、これからも真剣に訓練に取り組みたいです。(中学年)
- ○静かにすばやく行動できました。アラームが聞こえたらすぐ机の下に隠れて頭を守りました。みんな、アラームが聞こえたらすぐに机の下に隠れて頭を守り、逃げる並びも静かにできていました。登校時に地震があったらどうするか分かりません。私は、まずランドセルで頭を守るけど、そのあと家に帰るのか、どうするか分かりません。電柱がたくさんあるので危ないです。(高学年)

#### (引き渡し避難訓練)

引き渡し訓練では、子どもたちだけでなく、保護者にも振り返りのアンケートを書いてもらった。





《昨年度の保護者の意見から》

「地区で時間を分散すると よい。」とのアンケートの回 答を受け、今年度は、地区で 引き渡し場所を分けて、実施 した。

#### 防災ファミリー会議 実践事例

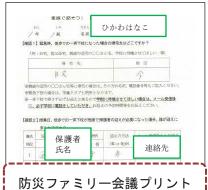
災害が起きたときに「どこに帰るのか」、「学校に待機するのか」、「だれが迎えに来るのか」 などを事前に家族で話し合って記録しておくことで,命を守るために自分がどうすればい いのかを意識付けることにつながっている。

### 良かった点

- ○地区ごとに校舎の出口が異なったため, 混雑を避けること ができた。
- ○地区ごとの下校なので、すばやくできた。

#### 改善点

●保護者が下校先を把握されていなかったので、保護者の 手元にもファミリー会議の資料があると良いと思った。



その後、保護者からの意見を受けての改善



家庭保管用を配付した。



学年ごとのファイルと地区ごとのファイ ルをつくることで、担任でなくても下校先 が把握できる。

#### 実践事例 危険箇所安全点検

自分たちで防災に特化した安全点 検を行い, 災害が起きたときに安全 かどうかを考えるような防災意識 を高められるように実施している。

天井にひびなど入っていないか, 落ちてきそうなものはないか。



### 実践事例 地域連携ウォークラリー

CSや保護者と連携してウォークラリーを行っている。 地域の危険箇所だけでなく, 良さに目を向けることにも つながっている。



立神地区コース



東上宮地区コース



今地区コース



新村地区コース

### 【仮説3】

保護者・地域住民等学校運営協議会(CS)・行政と協働して地域防災活動の実践を行い、その活動を地域に発信することで、児童・保護者・地域の防災意識を高めることができるであろう。

### 実践事例 CSと連携した防災教室の取組

中学校区防災教室は、11月の第1土曜のCSの日に行っている。本校と氷川中学校の学校 運営協議会が協力した中学校区拡大学校運営協議会で計画し実施している。

### 令和元年度: 防災教室の実施

- ・氷川公民館にて日本赤十字社からの講話を聞く。
- ・地区ごとに分かれ地区指定避難場所の確認を行う。







### 令和2年度:各地区現地で防災教室を開催する

・子ども 110 番の家確認 ・非常食試食 ・消火訓練体験・非常持ち出し袋作成 等 ※地区ごとに、CS 委員、区長、消防団、学校職員、PTA 役員が話し合って内容を決定

#### ◆参加者の感想(一部抜粋)

- ○学校とCS委員,区長,消防団などそれぞれが持ち味を出して取り組むことができてよかった。さらには、命の大切さ、防災の意識に加え、地域の良さ、家庭や地域での自分の役割なども感じられる取組へと進めていきたい。(CS委員)
- ○去年と違い各地区で防災教室が行われたため、危険箇所等を改めて見回るなどの 活動ができた。学校ではない場所で、小中学生、消防団などいろいろな方と学びが できたのは参加者皆にとって意義深かったと思う。(区長)
- ○学校での学習だとワークシートでの学習や写真を見るなどで分かった気になって しまいがちだが、フィールドワークや体験活動を、消防士、消防団、区長、その他 たくさんの方々に関わっていただき、学びの質が高かったと思う。(学校職員)
- ○学校以外の場所でシェイクアウト訓練ができたことや,小学生と中学生の学びの 交流ができたこと,CS委員や地域の多くの方に関わっていただいたことなど,と ても有意義な活動ができた。(学校職員)
- ○自分の住んでいる地区だけど知らないことがたくさんあった。中学生と一緒に学ぶことができてよかった。消防団や区長さんなどたくさんの人から話が聞けたし、 交流もできたのでよかった。(児童)

令和3年度:地区ごとに防災教室をする (令和3年11月6日(土)実施予定)

#### 〈めざす姿〉

このような取組を通し、小中学校だけでなく、CSと連携し、各地区の区長、消防団、民生委員・児童委員、PTA地区役員も参加し、地域を含めた防災意識の向上を目指す。毎年繰り返し実施することで、氷川沿いの地区、山際の地区、農業用地が多い地区など地区の状況が様々なので、地域に特化した内容を盛り込んだ防災教室につながり、"防災"に対する意識を継続することができると考える。同時に、地域を知り、危険も含めて地域を愛する郷土愛も育むことができると考える。また、次世代の地域を守り育む児童を、仮設1、2を通して育成していく。

実

知

る

•

践

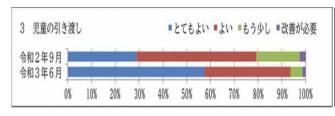
深め

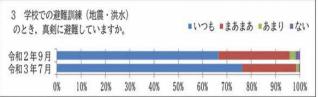
る

## 児童及び保護者のアンケート結果から見える成果(○)と課題(●)

1 引き渡し訓練についてのアンケート結果 保護者

2「防災」についてのアンケート結果 児童





- ○保護者の回答から「とてもよい」が約28ポイント増加した。昨年度の課題点を今年度の計画に 十分に生かし、より保護者の立場に立った訓練を実施した結果だと考えられる。
- ○児童の回答から、いつも真剣に避難している児童の割合が約10ポイント増加し、真剣に避難していない児童の割合は約3分の1にまで減少した。避難訓練に対する意識が高まり、より真剣に臨むようになってきたと思われる。
- ○週は告知有り、日時は告知無しの避難訓練においても真剣に避難行動がとれていた。実際に地震があった(震度2程度)時にも、主体的に素早く避難行動ができていた。
- ●いざという時に自分の命は自分で守れるように、避難訓練を自分事として捉えさせ、全員が時と場所、場合に応じた適切な避難行動を取れるように一人一人の意識を高める手立てを講じ続けていく必要がある。

### 成果(○)と課題(●)

- ○地震・火災避難訓練を実施したとき、児童には事前に、「一番近い階段横の渡り廊下を通って 運動場に行く」ことを伝えていた。放送で、火災発生場所が、その階段の近くだったことを知った複数の児童は、「火事の方に行くのは危ない。火から遠くなるように避難したがいい。」と 言い、計画と違う経路を通って避難した。このことは、災害に対し、児童が主体的に判断できたと捉えることができる。
- ○「学校での避難訓練(地震・洪水)のとき,真剣に避難している児童の割合」が増加していることは,(上記アンケート結果より)児童の防災活動に対する意識が高まったと捉えることができる。
- ○学校運営協議会が中心となって行った防災教室に、保護者、消防団、各地区区長、民生委員・ 児童委員等の地域住民に加え、行政とも連携して取り組んできたことは、より自分事として防 災・減災の意識を持つことにつながっている。令和2年度の参加者の感想や、令和3年度の取 組を話し合うときの意見等から、そのことを感じることができる。
- ●多面的・多角的な見方・考え方を働かせて協働的に解決する活動は,災害に関する課題だけではなく,日々の授業でも意識し取り組んでいく必要がある。
- ●避難訓練等の防災活動が形骸化したものにならないように、工夫・改善していく必要がある。 アンケート以外に、児童の意識の高まりを感じ取れる方法を検討していく必要もある。
- ●地域のコミュニティを築いていくことが共助の一歩である。地域ぐるみの防災活動やふれあい活動を工夫しながら継続して行く必要がある。活動したことは、学校だよりの配付・掲示や児童作成の新聞等であるので、効果的な発信方法も検討していく必要がある。